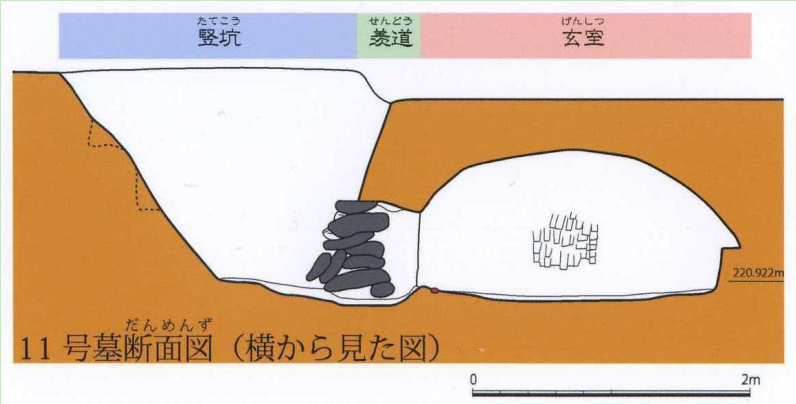
○ 地下式横穴墓について

地下式横穴墓とは、古墳時代の墓の一つであり、南九州地方で多く発見されています。その基本的な造りは、竪坑・羨道・玄室で構成されています。玄室に遺体を安置し、副葬品を並べ埋葬した後、羨門を川原石などで閉塞して竪坑を土で埋め戻します。副葬品には、武具・馬具・農工具などの鉄製品が多く出土しています。また、地下式横穴墓の中には複数埋葬されている例が多く、追葬（一つの墓に人が亡くなるたびに追加して葬っていく埋葬方法）を予定して造られたとも言われています。



11 号墓断面図（横から見た図）

○ 東二原地下式横穴墓群のココがすごい！！

死者を安置する玄室の多くが長い年月の間、天井が崩落することもなく密閉された空間で保たれていたことから、人骨や副葬品の保存状態が良く、人骨は 22 体（骨片含む）確認されています。玄室の構造としては、壁面に棚状の施設を設け、そこに鉄剣などの副葬品が置かれていました。また、壁面だけでなく天井部に至るまで、赤色顔料（ベンガラ）を使って、赤く塗られている特徴が見られます。

副葬品においても、16 基の地下式横穴墓のうち 10 基から鉄鏃や鉄剣などの鉄製品が出土しています。それ以外でも、鏡（2 号墓）や貝輪（8 号墓）など貴重な品々が出土しており、当時この地域で大きな力を持っていた集団の墓域と考えられます。

↑発掘調査時玄室

←2 号墓出土鏡

8 号墓出土貝輪→

↑腕に装着された貝輪（貝釧）

←玄室内天井

8 号墓 には、3 体の人骨が埋葬され、入り口から見て一番奥側の女性人骨の左腕には、南の島からもたらされたイモガイ製の貝輪（貝釧）が装着されていました。

遺体を埋葬する玄室は天井が「家」の形に造られており、死後の世界でも生きている時と同じように「家で暮らす」という世界観を持っていたことが伺えます。

11 号墓 には、5 体の遺体（すべて男性）が埋葬され、並んだ状態で見つかりました。

副葬品としては鉄製の鏃 15 点、刀子 3 点、剣 2 点、直刀 1 点、矛 1 点が出土しました。当時は鉄がまだまだ貴重な時代であり、中には、透かしの入った珍しい鉄鏃も発見されています。

↑ 11 号墓出土鉄製品

←透かしのある鉄鏃

二原遺跡公園

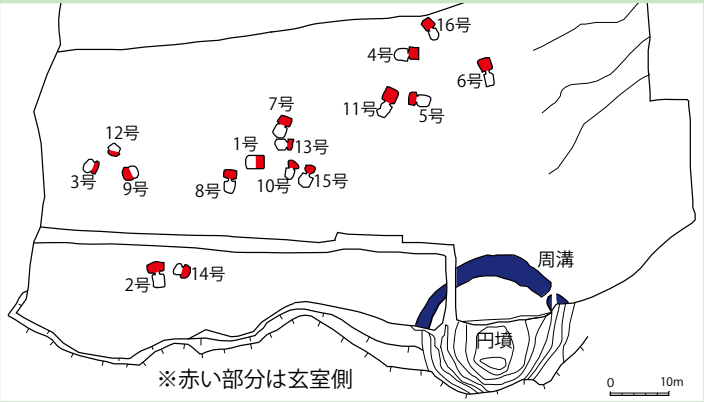
二原遺跡公園は、古墳時代の遺跡である東二原地下式横穴墓群を整備して公園化したものです。平成27年9月7日に宮崎県指定史跡となりました。

東二原地下式横穴墓は、小林市真方の標高約220mの二原台地上に位置し、古墳時代の集団墓が発見され、その豊富な出土遺物や特徴的な群構成から、小林市を代表する遺跡となっています。平成2年に発掘調査が行われ、調査の結果、円墳1基と地下式横穴墓が16基見つかっています。墓の形や出土した遺物などから、約1500年前（5世紀後半～6世紀前半）に造られたと考えられています。

○ 地下式横穴墓と円墳

発掘調査の時には、地下式横穴墓だけでなく円墳の存在も確認されました。墳頂部は未調査ですが、円墳の周囲に周溝と呼ばれる溝がめぐっていることがわかりました。この南九州独特の地下式横穴墓と全国的な円墳が、同じ場所で造られている例は非常に珍しく、古墳時代における地域の首長像や中央と地方の関係性を考える上でも大変重要な遺跡です。

東二原地下式横穴墓群
分布図→



○ おわりに

当公園では、地下式横穴墓という南九州独特の古の遺産を実感していただきたく、遺構を発掘調査の時の状態で保存した遺構露出展示をしております。

小林市教育委員会では、この貴重な文化財を末永く保存していくため、通常、施錠により管理をしていますが、毎月第3日曜日（午前9：30～11：30）に公開日を設け、ガイドボランティアによる案内を行っています。

お問合せ
小林市教育委員会
社会教育課
TEL：0984－22－7912
FAX：0984－23－9700